

Dance Dance Dance

ダンス

ダンス

ダンス



第5回アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ

第12回オールジャパンジュニア
ダンススポーツカップ2017 in 東京

ねんりんピック秋田2017



公益社団法人
日本ダンススポーツ連盟
Japan DanceSport Federation

2017 No. 85





Yomeishu

次のすこやかさへ、一步一步



黒酢パワーで、 キレッキレのダンスを！

養命酒製造

黒酢

高麗人参

元気・健康をサポート



果汁10%未満

「高麗人参黒酢」は

“元気・健康”

をサポートする黒酢ドリンクです。



養命酒製造

黒酢

生姜

血圧が気になる方へ



機能性表示食品

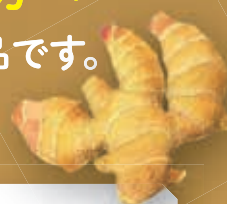
食生活は、主食、
主菜、副菜を基本に、
食事のバランスを。
届出番号：B134

果汁10%未満

「生姜黒酢」は

“血圧が気になる方へ”

に向けた機能性表示食品です。

機能性
表示食品機能性関与成分：
GABA

■本品にはGABAが含まれています。GABAは血圧が高めの方に適した機能があることが報告されています。■本品は、特定保健用食品と異なり、消費者庁長官による個別審査を受けたものではありません。■本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。

瞬間の輝きも、毎日の積み重ねがあつてこそ。養命酒製造の黒酢飲料は、何よりも美味しさにこだわり、続けやすさを大切にしました。日々の健康サポートにお役立てください。

ポイント
1

黒酢に健康素材を配合

黒酢は、必須アミノ酸のほか、酢酸、ビタミンB群、ミネラルなどを豊富に含んでいると言われています。さらに「高麗人参」「生姜」をそれぞれ配合することで、カラダに嬉しい黒酢飲料に仕上げました。

ポイント
2

美味しく飲めて低カロリー

リンゴ果汁入りで、すっきりとした味わい。毎日続けられるよう、美味しさと飲みやすさを大切にしながら、低カロリーも実現しました。

高麗人参黒酢：16kcal

生姜黒酢：15kcal (各1本あたり)



リンゴ果汁入りで
飲みやすい！

養命酒製造株式会社

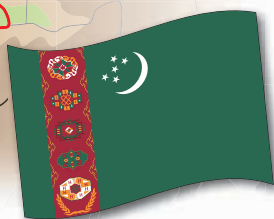
商品に関する問い合わせ先
養命酒製造 お客様相談室

☎ 0120-075-611

(9:00~17:00 土・日・祝日を除く)



第5回 アジアインドア・マーシャルアーツゲームズ The V Asian Indoor and Martial Arts Games



開催都市：トルクメニスタン国・首都アシガバート

参加国・地域数：62

競技種目数：21競技348種目

総合開会式：2017年9月17日

総合閉会式：2017年9月27日

主競技場：アシガバート・オリンピック・スタジアム

トルクメニスタンの首都アシガバートで開催された第5回アジアインドア&マーシャルアーツゲームズにおいてViennese Waltzで山本武志・木嶋友美組は見事金メダルを勝ち取りました。公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)が派遣する日本代表として、オリンピックイベントに限られる五輪のマークを胸に、メインポールには日の丸が上がり、国歌君が代が演奏されました。

アジアインドア&マーシャルアーツゲームズは、トルクメニスタン初の大規模な国際スポーツ大会となる、アジアオリンピック評議会(OCA)が主催する国際総合競技大会です。2005年から3

回開催された室内スポーツ競技とチェス・囲碁などの頭脳スポーツの総合競技大会「アジアインドアゲームズ」と、2009年に初開催された格闘技の総合競技大会「アジアマーシャルアーツゲームズ」が統合された総合競技大会です。

アジアインドア&マーシャルアーツゲームズ全体で、日本初の金メダル(日本全体で2つ)だったのでJOC役員から大変喜ばれたとのことでした。



メインポールに日の丸



表彰式



五輪のマークを胸に：山本武志・木嶋友美組



金メダル銀メダルの笑顔

山本武志・木嶋友美組

山本武志さんは石川県の金沢市出身、8歳でダンスを始め18歳で東京のシノダ・スポーツダンスクラブに所属。翌年、木嶋友美さんをパートナーにプロデビューしました。木嶋友美さんは東京都江戸川区出身。公益財団法人日本ボールルームダンス連盟(JBDF)に所属し、スタンダード&ラテンともにプロA級、統一全日本10ダンス選手権では2011年に初優勝以後4連覇。

2016年6月の公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)のPD部門発足後、PD会員に登録。2017年9月16日、チェコプラハで開催のWDSF-PD世界選手権スタンダード日本人初のセミファイナル入賞。2017年10月7日、フランス・マルセイユ開催のWDSF-PD世界選手権10ダンス第5位入賞。またポーランド共和国・ヴロツワフ市で開催されたIOCが後援する2017年7月の第10回ワールドゲームズ大会にも日本代表として出場するなど、海外でも活躍しています。

(JDSF広報部顧問・神宮周二)

国別メダル獲得数

Rank	NOC	金	銀	銅	合計
1	People's Republic of China	5	2	1	8
2	Republic of Korea	3	1	4	8
3	Japan	1	2	1	4
4	Kyrgyzstan	1	0	1	2
5	Vietnam	1	0	0	1
6	Hong Kong, China	0	5	0	5
7	Philippines	0	1	1	2
8	Macau, China	0	0	1	1
	Thailand	0	0	1	1
	Turkmenistan	0	0	1	1

～チームジャパンが勝ち取った輝かしい金・銀・銅メダル～(遠征報告)

竹下 次郎(JDSF選手強化部)

1. 競技日程

9月25日(月) 13時30分～17時15分 スタンダード

9月26日(火) 13時30分～17時15分 ラテン

2. チームジャパン

チームリーダー：水本 泰弘

コーチ：竹下次郎、杉崎 加代子

代表選手：小嶋 みなと・盛田 めぐみ、

山本 武志・木嶋 友美、

藤井 創太・吉川 あみ、

久保田 弓椰・徳野 夏海



日の丸

聖火



競技会場

3. 選手村 (Ashgabat Olympic Complex)



4. 報告事項:

①未知の国トルクメニスタンへ

日本代表選手団コーチとして帯同することが決まり、開催都市Turkmenistan/Ashgabatを改めてWebsiteで調べてみた。

『中央アジア南西部に位置する永世中立国、首都はアシガバート。アフガニスタン、イラン等と国境を接し、面積は日本の1.3倍であるが、国土の85%が砂漠。9月の平均気温は、最高31.8℃最低15.8℃、降水量4mmである。言語はトルクメン語、ロシア語』。イスラムの国でのダンススポーツ競技、まさに未知の世界への期待と不安で、一気にアドレナリンが身体中を駆けめぐった。

②現地到着

約10時間のフライト後、Moscow/Domodedovo国際空港に到着。これから乗り換えに10時間半程待つため、選手の健康第一を考え、空港ラウンジで身体を休めることにした。

最終目的地Ashgabatへの所要時間は、3時間半であったが、出発が深夜2時ということもあり、搭乗後まもなく眠りに入った。

機内アナウンスで目が覚め、窓の外を見ると延々と砂漠が続く。そして突然、真っ白な都市が見えてきた。それはまさに未知との遭遇。日本を出発して約25時間後に、Ashgabat国際空港にやっと到着。ロビーには、日本オリンピック委員会の役員の方々が出迎えに、パトカー先導の大型バスで、選手村へ向かった。選手村では厳重なセキュリティ・チェック後、日本代表選手団の宿舎に案内してもらった。宿舎は、男性と女性は階が異なっていたが、他の競技団体（レスリング、フットサル等）の日本選手と同じ棟で、3～4人部屋。

全員徹夜明け状態だったが、シャワーを浴びて、すぐに食堂でランチを取ることにした。食堂は、おそらく千人は入ると思われるとても綺麗な2階建て、料理もとても美味しく、そして現地の人々の素晴らしい「おもてなし」に感動した。

ランチ後、選手村の地図を見ながら、全員でダンススポー

ツ競技会場を下見に行った。午前11時というのに、外はすでに38度近い暑さ。灼熱の太陽がジリジリと肌をさす。シャトルバスに乗り10分程で競技会場へ到着。明日の練習会場のみ見学許可してもらい、帰りはモノレールに乗って宿舎に、モノレールから見える景色は、まるでテーマパークのようで、純白の建物、数多くの噴水、樹木、そして数百人のボランティアの人々。国を挙げてこの大会を開催していることを痛感した。

③競技 (出場18カ国55組)

スタンダード5種目、ラテン5種目及びサルサの11競技種目に対して4組が各2種目計8競技種目に出場し、金1、銀2、銅1の4個のメダルの獲得し、残り4種目は4位の成績だった。

★9月25日月 13時30分～17時15分 スタンダード

午前中のフロア練習を終え、いよいよ午後競技開始。今大会では、1組2種目までエントリー可と規定されているため、小嶋・盛田組がTangoとQuick Step、山本・木嶋組がViennese WaltzとSlow Foxtrotに出場。そして、準決勝全員競技、決勝ソロ競技だけの言わば一発勝負。観客席では、明日の競技を控えているラテンチームも一丸となって、「みなと、めぐ!」「たけし、ともみ!」と盛大な応援を送っていた。

小嶋・盛田組は準決勝からパワー全開で踊りだし、躍動感に溢れ、多くの観衆を魅了していた。若干の力みが見えたが、無事決勝ソロ競技に進出。山本・木嶋組の落ち着いた踊りは、安心して見ることができ、予定通り決勝ソロ競技に進出。

強豪ひしめく決勝ソロ競技では、小嶋・盛田組のTangoは、惜しくも第4位であったが、得意のQuick Stepでは、見事「銀メダル」獲得!よく頑張った。



銀メダル 小嶋みなと・盛田めぐみ組

山本・木嶋組は、Viennese Waltzでは、日本代表選手団第1号の「金メダル」獲得。加えてSlow Foxtrotでは、「銀メダル」獲得という素晴らしい成績を勝ち取った。

2組とも長旅の疲れや世界の大舞台でのプレッシャーもあったが、思う存分自分たちの最高のパフォーマンスを発揮できた。

日の丸が揚がり、君が代が流れる表彰式では感極まり、思



山本武志・木嶋友美組の華麗な踊り



躍動感溢れる小嶋みなと・盛田めぐみ組



若さ溢れる藤井創太・吉川あみ組



ドラマチックな踊りを披露した
久保田弓椰・徳野夏海組

わず目がしらが熱くなった。世界のひのき舞台で選手と共に君が代を聴ける至福の時を過ごせたことは、素晴らしい思い出となった。

☆9月26日 13時30分～17時15分 ラテン

昨日の興奮から、ラテンチームもモチベーションが更にアップ！ 午前中の入念なりハーサル後、いよいよ久保田・徳野組がSambaとPaso Doble、藤井・吉川組がChachacha とJiveに出場。新カップルでの初挑戦の久保田・徳野組は、百戦錬磨のリーダーが落ち着いて、パートナーと常にコミュニケーションを取りながら、リードしているのがとても印象的であった。

久保田・徳野組、藤井・吉川組共に、予想通り決勝ソロ競技へ進出。強豪ひしめくラテン決勝ソロ競技では、久保田・徳野組はSambaとPaso Doble共に、惜しくも第4位であった。

藤井・吉川組のChachachaは、若さ弾ける踊りで、見事「銅メダル」獲得。Jiveは最後までフィリピンの選手と競り合い第4位となった。踊り終えた藤井創太が「今日は最高の踊りができました！」と興奮しながら発した言葉が、私の胸に強く響いた。



銅メダル 藤井創太・吉川あみ組



スタンダードと同様にラテンも強豪中国・韓国選手の踊りは、目をみはるものがあった。特に、フロアでの女性の視線、ボディのしなやかさに、自然と心が引き込まれていくのを感じた。

④閉会式参加

日本オリンピック委員会役員と一緒に閉会式に参加した。アジア各国から派遣された選手団と共に、6万人の大歓声の中、手を振り、胸の鼓動の高まりを感じながらの行進は、二度と体験できない素晴らしい感動と喜びを与えてくれた。そして、幻想的なイルミネーション、壮大な民族舞踊、すべてが心を奪われるドラマチックなシーンでもあった。

尚、この大会には日本からフットサルやレスリングなど6競技60名の選手が派遣され、金2、銀5、銅10の計17個のメダルであった。



大会を終えて……

今回の遠征は、今後の選手強化を図る上で大変貴重で有益な体験でした。アジア各地から18ヶ国もの国々が参加して、アジアのダンススポーツが、確実に広がりを見せていることを実感できたこと。また各国の代表選手にPD選手が名を連ねてきていることから、各国の新しい勢力図も把握することが出来ました。

我々日本チームも初めてPD(プレミアディビジョン)部門、GD(ゼネラルディビジョン)部門それぞれ2組ずつを選抜した編成で臨みました。代表が決定してからこの大会までの約2ヶ月間、4組のスケジュールがなかなか噛み合わず、結局一度も一緒に集まることは出来ませんでした。正直これで上手くいくのか不安もありましたが、結果は全く逆で4組は実に良くまとまってくれました。

成田に集まり出国してからは常に一緒に行動しました。渡航中も現地到着後も、食事や会場施設の下見やその他全てをとにかくチームで行動しました。その間に選手同士で日頃考えていることや悩んでいることなど、話したり相談したりしたようです。

日頃見えてないことや知らないことの発見が4組の距離や壁がなくなり、お互いが信頼できる仲間としてチームジャパンが形成されたように感じます。その最たるものが応援風景によく表れていました。これまでこまで声をからして大きな声を出して



チームジャパン帯同役員(左から)竹下次郎、水本泰弘、(右端)杉崎加代子とJOC派遣日本代表選手

チームリーダー 水本 泰弘 (JDSF選手強化部長)

応援したことがなかったのかもしれませんが。そんな必死の思いがあったからこそ、全組が持てる力を出し切ったことで、満員の観衆からも大きな声援を受けていました。

スタンダードもラテンは何れも大接戦の僅差の戦いでしたが、このチーム力が発揮できたからこそその結果だと思います。山本組のみならず全員が金メダルを獲得できれば良かったのですが、特に五輪のマークを胸に日の丸を背負っての競技会だった故に、全員が全力で演技が出来たことは、一人ひとりの人生に計り知れない程の貴重な体験だったと思います。今回の感動や喜びや悔しさの全ての経験が糧となって、今後の大きな飛躍につなげて欲しいと心から願っています。

Asian Indoor and Marshal Arts Games ジャッジ報告

鶴崎 清貴(JDSF国際本部長)

Asian Indoor and Marshall Arts Gamesのジャッジに行っていましたので、ご報告いたします。

9月21日、大分13:00～成田14:40のはずが、ジェットスターの機材のため、30分でチェックインカウンターが閉まり、乗ることができませんでした。JALは通常20分でも大丈夫だったので、通常行動をしていました。14:30の羽田行きに乗り、羽田からバスで成田に行きました。今回高額なエアチケットなため、時間の変更が可能だと思っていましたが、ジェットスターのチェックイン時間も知らされておらず、時間変更も不可でした。さらに、ジェットスターに乗りなかったため、その後のチケットが無効になる恐れがあるため、有効にする手続きも自分で行なう必要がありました。

9月22日、成田10:45～モスクワ15:00、日本選手と一緒にになりました。モスクワで、10時間のトランジット。

9月23日、モスクワ01:30～アシガバート07:05。モスクワの空港で、カザフスタンのジャッジと会い、その後ホテルやユニフォームの調達まで一緒でした。彼はロシア語ができるので、スムーズに行なうことができました。ほぼ徹夜でしたが、10時過ぎからユニフォームのサイズ合わせの後、台湾の葉会長の車で、他の国のジャッジとともにショッピングに行きました。何も購入するものはありませんでしたが、想像以上にスーパーマーケットが発達しており、驚きました。

9月24日、10:30にホテルフロント集合。ジャッジはテクニカル・オフィサーとして分類され、選手とは完全に切り離されていました。テクニカル・オフィサーは、3つのビルに分けられて宿泊し、私がいるビルのフロントにトランスポートの係員がいるため、ジャッジの集合場所になっていました。会場は1,000名程度収容の体育館で、チケットは完売でした。午後からはジャッジのリハーサルを行ないました。

両側がジャッジの滞在する宿舎で、通常のホテルと変わっていませんでした。また真ん中のビルがレストランです。選手はメインエントランスから、ジャッジはサイドのエントランスから2階のレストランへと、完全に分離され、選手と顔を合わすことはありませんでした。

9月25日、11:30にフロント集合。13時過ぎから試合開始。シングルダンスでは、WDSFの新審判方式のAJS3.0と同様の方式で、TQ (Technical Qualities) を受け持ちました。また、グループダンスでは、TQとPS (Partnering Skill) を担当しました。

中国がスタンダードで金4個、日本は山本組がヴェニズワルツで金、スローで銀、そして小嶋・盛田組がク



イックで銀でした。山本組が落ち着いた踊りで、順当な成績でしたが、小嶋・盛田組は少し疲れが感じられました。

またサルサ競技終了後、ADSF (アジアダンススポーツ連盟) 主催で鶴飼慶司会長が滞在するホテルで夕食を取りました。イスラムの国、トルクメニスタンで、ダンススポーツ競技が実現したのは、鶴飼会長の並々ならぬご尽力にほかなりません。

9月26日、11:30にフロント集合。昨日と同様にシングルダンスでは、TQを受け持ち、グループダンスでは、TQとPSを担当しました。昨日と変わり、韓国が金を3個獲得しました。日本はチャチャチャで藤井組が銅を獲得しました。他の種目は4位となり惜しい結果となりました。ラテンでは、他のアジアの国々と実力が拮抗しており、コンディションの調整いかんで、順位が変更する可能性があり、日本選手の場合長距離のフライトが少なからず影響したのではないかと思います。

9月27日、アシガバート08:00～モスクワ09:45。朝5時に迎えるバスに乗り、アシカバード空港へ、ロシア空港で8時間近くのトランジットでしたが、フットサルの選手団と空港のラウンジで会い、今回の成果(女性が金、男性が銅)を互いに祝福し合いました。

モスクワ17:15～成田28日08:35。成田10:30～大分12:25。無事大分へ帰宅しました。



大会役員・審判員 (前列中央鶴飼ADSF会長 後列右から2人目が筆者)



第12回 オールジャパンジュニア ダンススポーツカップ2017 in 東京 ジュニア・ユース世界選手権代表選考会

スポーツKLE
BIG
この事業はスポーツ振興くじの
助成を受けて実施します。



特別協賛：株式会社 **ブルボン**

2017年7月30日(日) BumB東京スポーツ文化館(東京都江東区)

2003年(平成15年)、ジュニア育成振興のためにジュニア育成部が創部されました。ジュニア育成の基本方針として、「ジュニア層の底辺拡大」「ダンススポーツへの導入」「トップアスリートの養成」を掲げ、底辺拡大には小林英夫氏開発の「ダンスうんどう」を取り入れ、「ダンスうんどう」から10ダンスへ導入するという筋道でジュニア層の開発・育成を目指すこととなりました。

そして当時競技本部長を務めていた溝口稔ジュニア育成部長(特任顧問)の多大なご尽力により、2006年8月20日、静岡県立中央体育館において「第1回オールジャパンジュニアダンススポーツカップin静岡」が開催されました。この大会にはロシアから5組のジュニア選手を招待し国際交流を図りました。大会終了後、ロシアのジュニア選手は地元静岡の子どもたちとディズニーランド等を訪れ、さらに長野県、茨城県、群馬県をホームステイをしながら回り、各地で歓迎の日露親善ジュニア・ダンススポーツ交流会が開催されました。その後、2010年の長野大会まで、ロシアのジュニア選手の招待、日露交流は続きました。静岡からスタートしたこの大会は



選手宣誓の五月女光政・五月女淑佳組
(ブルボンDST)
昨年の三笠宮杯のJOCジュニアオリンピック
カップで優勝し、平成29年度の「JOC
オリンピック有望選手」に認定を受けた五
月女組が選手宣誓を務めました。

各都府県持ち回り開催されていましたが、今回から毎年東京で開催されることになりました。

9時30分、開会式が始まり、溝口稔実行委員長の開会の辞に続き、山崎孝明江東区長は「2020東京オリンピックでは江東区で11競技、パラリンピックは9競技が行なわれます。現在、「スポーツと人情が厚いまち江東区」を掲げて、江東区の魅力を国内外に発信している」と挨拶されました。



来賓の(左)山崎孝明東京江東区長(東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会参与)(右)ご子息の山崎一輝東京都議会議員(都議会東京オリンピック・パラリンピック推進対策特別委員会委員)



山田淳
JDSF専務理事

秋元司JDSF顧問
(衆議院議員、ダンス文化推進議員連盟事務局長)

山田淳専務理事は「遠くからも多数の選手が参加。若い選手が将来の日本を担う。このような形で開催できたことに役員スタッフ一同そして選手に感謝申し上げます」と挨拶、ご来賓の秋元司JDSF顧問(衆議院議員、ダンス文化推進議員連盟事務局長)は、地元江東区出身、「今日ご出場の選手は、いずれオリンピックで活躍する選手になるでしょう。ここは東京の下町、是非、地元の伝統・文化にも触れていただきたい」と挨拶されました。

ユース戦/ジュニア戦

昨年度ユース戦スタンダード・ラテン共に優勝の藤井創太・吉川あみ組、準優勝と第3位の大西大晶・大西咲菜組は日本を代表するアダルトに成長し、ブルボンDSTも卒業。抜けた後はきっちり渡辺安登・石垣真衣組がユース戦両部門で優勝、昨年度ジュニア戦優勝の五月女光政・五月女淑佳組が準優勝、更にジュニア戦の優勝も飾り、ジュニア戦は両部門連覇を果たしました。

ジュニア スタンダード



渡辺俊介・中村安里組(ダンスチーム
みやおか)(同La 5位)

ジュニアラテン



準優勝

濱田琉光・岡田愛彩組
(木嶋クラブ)(同St 4位)



第3位

長谷川悠・安達あん珠組
(かがやき生涯学習J教室)(同St 3位)



第4位

太田佳輝・那須野姫佳組
(キッズ向山スターズ)(同St 6位)



第6位

上岡裕人・中澤 爽組
(ダンスチームみやおか)(同St 5位)



ユーススタンダード 表彰式

- 優勝 渡辺安登・石垣真衣 組(ブルボンDST)
 準優勝 五月女光政・五月女淑佳 組(ブルボンDST)
 第3位 日比野湧・和野歩未 組(ダンスチームみやおか)
 第4位 濱田琉衣・稲村百香 組(ブルボンDST)
 第5位 石垣和宏・三喜穂菜美 組(ダンスチームみやおか)
 第6位 野地雅人・鹿野田花 組(福島県DSC)

第3位



日比野湧・和野歩未 組



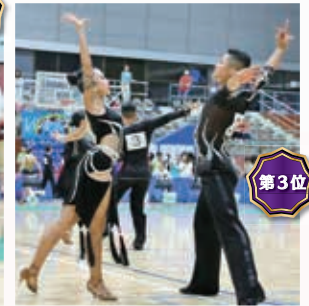
優勝

渡辺安登・石垣真衣 組



準優勝

五月女光政・五月女淑佳 組



第3位

濱田琉衣・稲村百香 組

ユースラテン 表彰式

- 優勝 渡辺安登・石垣真衣 組(ブルボンDST)
 準優勝 五月女光政・五月女淑佳 組(ブルボンDST)
 第3位 濱田琉衣・稲村百香 組(ブルボンDST)
 第4位 石垣和宏・三喜穂菜美 組(ダンスチームみやおか)
 第3位 日比野湧・和野歩未 組(ダンスチームみやおか)
 第6位 千葉隆矢・降旗友希 組(ボディーアート一関)



ジュブナイルラテン 表彰式

- 優勝 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実 組(D.T.Sジュニア相模原)
 準優勝 渡邊裕太・小西乙愛 組(ダンスチームみやおか)
 第3位 濱田琉成・岨 桜 組(木嶋クラブ)
 第4位 久保力也・大西陽来里 組(ハッピー Happyクローバー)
 第5位 齋藤隼一・濱田安珠 組(ダンスチームみやおか)
 第6位 岡田悠希・鮫島粹良 組(ジュニアアスリートクラブ)



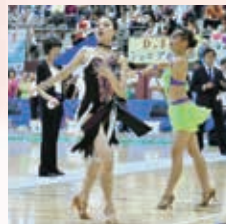
優勝

ホワイトン謙心・ホワイトン
夏奈実 組(同St 優勝)



第3位

濱田琉成・岨 桜 組
(同St 3位)



パートナー部門のソロラテン風景



ジュブナイルスタンダード 表彰式

- 優勝 ホワイトン謙心・ホワイトン夏奈実 組(D.T.Sジュニア相模原)
 準優勝 渡邊裕太・小西乙愛 組(ダンスチームみやおか)
 第3位 濱田琉成・岨 桜 組(木嶋クラブ)
 第4位 久保力也・大西陽来里 組(ハッピー Happyクローバー)
 第5位 岡田悠希・鮫島粹良 組(ジュニアアスリートクラブ)
 第6位 齋藤隼一・濱田安珠 組(ダンスチームみやおか)
 第7位 津田琥汰朗・津田マリア 組(ジュニアDSC大阪)



女子中学生スタンダード



女子中学生ラテン

優勝



庄子 遥・中野未菜 組(宮城県)



女子高校生スタンダード

優勝

堀 真・松村愛花 組
(ハッピー Happyクローバー)
(女子中学生St優勝)



女子高校生ラテン

フリーダンス チーム対抗戦



同点優勝 レインボースマイルとやま(富山県)(サルサ・チーム対抗戦優勝)



同点優勝 ハッピー HAPPYクローバー(富山県)(サルサ・チーム対抗戦準優勝)

フリーダンス チーム対抗戦

- 優 勝 レインボースマイルとやま(富山県)
- 優 勝 ハッピー HAPPYクローバー(富山県)
- 第3位 LIL' FLY DANCE ENTERTAINMENT(東京都)
- 第4位 アスリートミヤギ(宮城県)
- 第5位 てるて(神奈川県)
- 第6位 スピカクラブ(埼玉県)
- 第7位 からっ風の子(群馬県)
- 第8位 横浜D・Sジュニア(神奈川県)
- 第9位 チーム茨城(茨城県)
- 第10位 ジュネス(東京都)
- 第11位 スマイルジュニア(新潟県)
- 第12位 きらりん☆スマイリー(長野県)



ベストマナー賞
LIL' FLY DANCE ENTERTAINMENT(東京都)

リズム体操の部門の名称で親しまれていたチーム対抗の団体戦は、第10回大会からフリーダンスチーム対抗戦となり12チームが出場、富山県のハッピー HAPPYクローバー(前回優勝)とレインボースマイルとやま(前回準優勝)が共に優勝(同点)に輝き、富山県のレベルの高さチームワークの良さが目立ちました。今回はサルサのチーム対抗戦も行なわれ5チームが参加しました。

サルサ・チーム対抗戦

- 優 勝 レインボースマイルとやま(富山県)
- 優 勝 ハッピー HAPPYクローバー(富山県)
- 第3位 CHEE'S LA SARIDA(東京都)
- 第4位 Sabor caleno kids(東京都)
- 第5位 ひたちなかジュニア(茨城県)



ベストマナー カップル賞
吉岡栄太・堀井日菜子組(サークル集い)

お楽しみジュニア交流会

大会の前日、7月29日(土)にBumB東京スポーツ文化館の大会と同じメインアリーナで開催されました。

ジュニア育成部の水本慶子さんと秋田幸子さんにより、サルサ、メレンゲ、子どもダンスうんどうの講習が行なわれ、宮城県、富山県などの子どもたち約50名が参加、途中から父兄など大人も加わり楽しい講習会兼交流会となりました。



講習会のスタート!



サルサ講習

全国のキラ星大集合!!

阿部快聖・西原明日蘭組
(ジュニアアスリートクラブ)
ジュニアラテン(La)に出場し
準決勝進出

共に15歳、仙台と横浜の遠距離カップル、練習は月2回ほど、Stは苦手。まずはユースラテンチャンピオンを目指します。

山口剛競技本部長「指先までしなやかに延びて、良い踊りでした!」



山下遥聖・山下実彩妃組(愛知県)
ジュニアStとLaに出場し、
Stは準決勝進出

12歳と10歳の兄妹カップル、愛知県からの出場です。

松山光男PR推進本部長「キラキラと輝いて踊っていました。将来性のあるカップルです!」



津田琉汰朗・津田マリア組
(ジュニアDSC大阪)

ジュニア、ジュブナイルのStとLaに出場、
ジュニアStは準決勝進出

小学5年10歳と小学4年9歳の姉弟カップルです。大阪から出場。

溝口稔ジュニア育成部長「さわやかな表情で、踊りも清々しかったです!」



足立拓海・木下真代組(千葉県)

小学生4~6年StとLaに出場
小学生1~3年Stは準優勝

カップル組んで1年週3回の練習。宮岡先生は怖いけど、一生懸命やると優しいです。

秋田幸子ニュージェネレーションダンス本部長「8歳同士のカップル。表現も個性的、キャラもOK。エンターテインメント性があり将来楽しみなカップルです!」



庄子 遥・中野末菜組(宮城県)

女子高校生Laに出場し優勝
共に16歳。宮城県から出場。

水本泰弘選手強化部長「スタイル、ルックス、リズム、いずれもばっちりです! 明日からでもDTC(東京都江東区有明にあるJDSFダンススポーツレーニングセンター)に来てください!」

イタリア海外合宿2017

海外合宿チームリーダー 仲野 巽

5回目の海外合宿

2013年に海外合宿を始めてから、早くも今回で5回目を数えることになりました。

場所は、今回もイタリア、モリネッラ市。イタリア北部の古都ローニャから車で30



成田空港国際線出発ロビーで

分の人口1万5千人の小さな町です。ここに今世界一のダンスチームと言われるチームディアプロの拠点があります。

なぜJDSFがここを海外合宿の場所に行っているかは、レッスンや練習のための2つのダンスフロアがあり、フィジカルトレーニング専用フロアとトレーナー、講義室、そして世界中から集まってくる選手達のための宿泊所など設備が一か所に整っていることです。そして何と言っても、現在の世界チャンピオンをはじめとする世界トップクラスの指導者が揃っていて、ここに行けば全てが揃っている正に“ワンストップダンス合宿所”です。

今年は6月14日日本出発、6月22日帰国の全9日間（現地滞在6日間）の中で、前半3日はマッチアナリシス、中日の日曜は国際競技会参加、後半2日はプライベートレッスンとトレーニングの日程で、行うことになりました。

世界シニア代表の参加

今年の特徴は、今年10月の世界シニア I ラテンの日本代表に決まった名越慎吾・明子組と岸英明・田中志保組（ロボス&キンタロー）が参加したことです。

このシニア2組は、10月の世界選手権を目標に、世界的なコーチから指導を受け国際競技会にも出場して、国際経験を積むことという大きな目的で参加することになりました。

もちろんTBS金スマ取材のためにTBSの取材チームも、合宿所近くにホテルを借りて岸・田中組のレッスン・トレーニング、合宿風景を撮影することになりました。この一部は、すでにTBS金スマ社交ダンスで放映されました。

合宿前半（6/15～6/17の3日間）

合宿前半のメイン行事は、マッチアナリシスです。

これは、前回も報告しましたが、WDSF審判システム2.1の方法で、全員全種目ソロで踊り、9か国のジャッジが4つのコンポーネント（TQテクニクの質、MM音楽に対するムーブメント、PSパートナーリングスキル、CP表現・コリオグラフィー）ごとに10点



マッチアナリシス風景

満点評価をするというものです。点数評価と共に、改善すべきポイントにマークが付けられて、結果シートは踊り終わるとすぐに印刷されて選手に手渡されます。



選手は、WDSF審査基準から見た自分の課題を知り、改善ポイントを絞ることができるので大変好評です。もちろん選手向けのイベントですが、審判にも役立つものなので、我がJDSFでも実行してみたいと考えています。

岸・田中組も参加して、なかなかしっかりと踊って国際ジャッジから評価を受けていました。

シニアグループのアンコナオープン出場

6月16日はシニアグループ2組が、モリネッラから約100Km離れたアンコナで、WDSFシニア I ラテンに出場するため、別行動になりました。競技結果は、名越組優勝、岸組準優勝と好成績を収めました。以下は名越慎吾さんからの報告です。

イタリア アンコナオープンに出場して：

私達の今年の最大の目標は、10月にマイアミで行われるシニア I ラテンの世界選手権で表彰台のてっぺんに立つことです。昨年出場した世界選手権はベスト24と悔しい結果に終わり、どのようにした



ら海外競技会で成績を上げるのが出来るのか二人で考えながら、今年一年の競技会や練習、レッスンのスケジュールを組み立てました。そして、海外選手や審査員の前で踊る機会を増やす事が海外競技会で成績を出すためには重要と考え、今年は海外競技会出場を特に重視してきました。

その中の1つが6月のイタリア合宿の最中に行われたアンコナオープンです。

昨年の世界選手権後初の海外競技会で、どんな成績になるか緊張しましたが無事にシニア I ラテンの部優勝という最高の成績を収めることができました。昨年の世界選手権にも出場したメンバーがいる中、優勝最有力候補と云われた選手を抑えての優勝に大きな手応えを感じることができました。

海外選手は2人で踊っている感がとても強く、また女性が非常にストロングで、男性に負けない体力・筋力がありなが

ら女性らしい表現ができる選手が非常に多いと感じています。今回は競技会出場と共に海外合宿にも参加し、世界チャンピオンのガブリエル組・サベリオ組のレッスンや、高い意識と技術を持つ海外選手達の中でトレーニングをした日々は僕らにとって大きなプラスとなりました。何もかもが日本とは違う環境で得たものは非常に貴重で、日本のサラリーマンでも世界戦や国内オープン戦で十分に戦える！ということをお皆さんに覚えてもらうために、これからも精進していきます。

(名越慎吾・明子)

後半2日間 (6/19 ~ 6/20)

さて、翌日の月曜から2日間は、マッチアナリシスと競技会参加で集まっていた各地の選手たちも帰って、落ち着きを取り戻した各会場で、じっくりレッスンとトレーニングに励みました。



ランボートレーニングでラダーを走る田中志保選手と岸英明選手

帰国

あっという間にモリネッラでの6日が過ぎて、帰国の日になりました。帰日も貸切バスでモリネッラからボローニャ空港へ。

今回も、数えきれない貴重な経験をした合宿になりました。合宿環境が整った素晴らしいディアプロの合宿所、暖かく迎え入れてくれたチームディアプロには感謝、感謝です。来年もまた来ます!!



成田空港に到着

WDSF競技会への出場

合宿中日の6月18日、合宿地モリネッラから車で2時間ほど北の小さな町ヴィラフランカ・ディ・ヴェローナで行われたWDSF競技会に、現地参加組のマリオ・三橋組、菅原・ラウラ組と一緒に、全員で出場しました。

ところが、朝アパートに来るべき貸切バスが、ボローニャの同じ住所（この住所名は、昔の有名作家の名前で大きな町には必ずあるとのこと）に行ってしまうトラブル発生。バスは約1時間遅れでモリネッラ出発になりましたが、出場の早い五月女組と仲野正子がTBS調達の小型車をお借りして出発することができ、競技15分前に到着することができました。しかし、結果的には競技が30分遅れ（最終的に1時間半遅れ）で、問題になりませんでした。「イタリア時間」の競技会運営には、我々日本人は翻弄されます。

競技結果は、WDSF International Open スタンダードで、マリオ・三橋組（準々決勝19位）、菅原・ラウラ組（同21位）、大西組（同23位）でした。135組という大勢が出場して、また強い選手も多くレベルが高い競技会でした。

WDSF International Openラテンも出場90組で、ガブリエルも出てレベルは高かったです。八谷・皆川組（準々決勝18位）。名越組（1次予選）、岸・田中組（1次予選）とシニア組にはちょっと厳しい競技会でしたが、良い経験になったと思います。

また、15歳以下のUnder15ラテンも開催され、五月女組が、1次予選から圧倒的な強さで踊り切り優勝しました。この合宿でも一段と進歩が見られました。



大西大晶・大西咲菜組



菅原一樹・ラウラコラヴィッツ組



マリオ・デ・ロース・三橋櫻組



休憩時間の日本選手（大西早織撮影）



八谷和樹・皆川円組



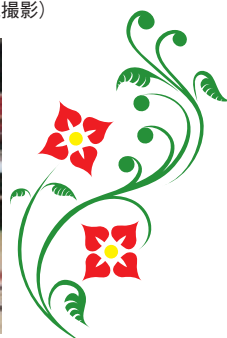
名越慎吾・名越明子組



岸英明・田中志保組



五月女光政・五月女観佳組（ブルボンDST）





2017ダンススポーツグランプリin北海道

2018年WDSF世界選手権ラテン代表選考競技会

2018年WDSFシニアI選手権スタンダード代表選考競技会

併催北海道知事杯争奪2017年後期北海道ダンススポーツ選手権

2017年8月20日(日)／北海きたえーる(北海道立総合体育センター)

今年、新たに北海道ダンススポーツ連盟会長に就任された高橋毅氏は「北海道の方々に生涯スポーツとしてダンススポーツの普及並びに発展を図り、健康でイキイキとした人生を楽しんでいただきたく、更なる活動の輪を広げて多くの仲間を増やしていきたい」との意気込みを語りました。今回のグランプリ北海道にも多くの選手が出場。グランプリシリーズにはPDグランプリカップも同時開催されていますが、PD部門の選手は時節柄多忙なために、競技会は出来ませんでした。しかしながら、今年カッ



高橋毅北海道ダンススポーツ連盟会長



山田淳専務理事



金子和裕常務理事
(実行委員長)

プル結成と同時にPD部門へ移籍、3月19日のPDデビュー戦でスタンダード・ラテンで優勝、さらにPDグランプリカップ九州ラテン優勝、同中部スタンダード優勝、海外でもWDSFアジア選手権ファイナルなど大活躍。

“北海道の星”、久保田弓柳さんと茨城県出身の徳野夏海さんによるスペシャルデモが披露されました。尚、来年からはPD競技も開催できるようにグランプリ北海道の開催日は9月への移動が決まりました。

ダンススポーツグランプリ ラテン

本日実施された数多くの競技の中でもトップアスリートが競演する注目の競技であり、新審判システム2.1J2で行われます。海外でも活躍のスケールの大きい迫力のある踊りの八谷組と、最近特に洗練された美しいラインの踊りの大西組の対決が注目されましたが、5種目すべてに1位となった八谷組が優勝。大西組も健闘しましたが、5種目全て2位となり準優勝、大久保稔也・吉村春香組(東京都)が第3位となりました。



優勝

八谷和樹・皆川円組(千葉県)

一つの通過点ですが、このような大きな大会で優勝できて嬉しい！先週のジャーマンオープンWDSFグランドスラムスタンダード、ラテン共に日本選手最高位。今日はワンランク上のダンスを皆様に見せたかったので良かったです。これからも課題を持ち、達成感を感じながら三笠宮杯、東京オープンはもちろん、海外の競技会にもチャレンジし世界を目指して頑張ります！



準優勝



第3位



第4位



第5位



第6位

大西大晶・大西咲菜組(富山県) 大久保稔也・吉村春香組(東京都) 千葉海都・千葉琳花組(岩手県) 押川慧悟・和田知世組(神奈川県) 名越慎悟・名越明子組(神奈川県)

シニアI 選手権 スタンダード表彰式



優勝



準優勝



第3位

村川明・村川絢子組(神奈川県) 高杉耕一・高杉綾子組(東京都) 大東哲平・大東にに組(神奈川県)

DSCJ A級戦 スタンダード 表彰式



優勝

太田歩生・太田なごみ組(札幌圏)

シニアII A級戦 スタンダード



スペシャル
デモ

久保田弓椰 組
徳野 夏海

これからも北海道
所属の選手として競
技活動と指導を行
なってまいりますの
で、よろしくお願いします！



DSCJ B級戦 スタンダード



DSCJ B級戦 ラテン



DSCJ C級戦 スタンダード



DSCJ C級戦 ラテン 1



太田組は、HBC北海道放送局で、「今日どっ
きり」の番組のスーパー小中高生大集合で、
ジャイブ、サンバを披露しました。北海道
DSC高橋毅会長のお孫さんです！



ゴールドデン フィットエンビ

美しいシルエットを追求！
さらに進化した光沢シャドーストライプエンビ。
プロも絶賛したスリムエンビを
是非一度お試しください！

No.50070

価 格 ￥178,000+税
サイズ YA体・A体・AB体

モデル:三輪嘉広先生



東京・秋葉原 東京トリキン(株)

エンビのトリキン

TEL.03-3866-4854 FAX.03-3866-4033

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-4-1 <http://www.torikin21.com>

営業時間 / 月～金 10:00～18:30 土日祝 10:00～17:30



(世界選手権シニアIV2018 in NAGANO プレ大会)

全日本選手権 シニアⅢ スタンダード

2017年7月16日(日)／長野市ホワイトリング



久保田恵さん、小池さよ子さんによる木遣り唄



来年シニアⅣ世界選手権！
健康な寿命を延ばして、
日本も世界で元気に。
ダンスライフがよりクオリティの
高いものになるように！



主催者挨拶
百瀬芳正長野県DS連盟会長



笹山治一審判長による宣誓



国歌独唱は岡田瞳さん
(選手宣誓：岡田明義・
祐子さんのお嬢様)



【選手宣誓】

私たち全日本選手権シニアⅢ出場選手一同は、この大会が来年の世界選手権シニアⅣのプレ大会として、日本のシニアを元気にしてゆく大きな布石となるよう、JDSFと長野県DS連盟に感謝をし、シニアⅢといえども「まだまだこれから」の思いを胸に、WDSF競技規則、JDSF競技規程を遵守し、選手人生の中で最も素晴らしい一日に出来るよう、正々堂々と闘い抜くことを誓います！

選手代表、岡田明義・岡田祐子組

WDSF世界選手権(World Championship)シニアⅣが日本で初めて2018年7月14日、長野市ホワイトリングにて実現します。

WDSF(世界ダンススポーツ連盟)は、国際オリンピック委員会(IOC)から1997年に唯一のダンススポーツ国際競技連盟(International Sports Federations: IF)として正式に認定され、公益社団法人日本ダンススポーツ連盟(JDSF)は、我が国のNOC(各国のオリンピック委員会National Olympic Committees: NOC)である日本オリンピック委員会(JOC)に正式加盟している国内競技連盟(National Federation: NF)です。WDSFには93の国・地域が加盟、うち66の連盟がNOC(その国のオリンピック委員会)に加盟しています。

7月16日14時半過ぎ、いよいよセレモニーの開始です。WDSFの旗、JDSFの旗が行進、続いて選手団の入場です。国歌独唱は岡田瞳さん。選手宣誓、審判の宣誓も行なわれました。そして久保田恵一さん、小池さよ子さんによる下諏訪の木遣り唄も披露されました。

全日本選手権シニアⅢ スタンダード



優勝

今井正幸・今井由香組(東京都)

全日本選手権シニアⅢ ラテン



優勝

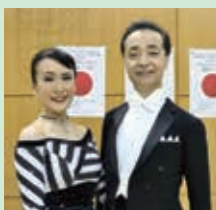
田中克典・小山美香子組(東京都)



全日本シニアⅢの大会で優勝でき嬉しく感謝申し上げます。踊ること、研究、挑戦が好き、そして何よりダンス仲間が大好きで、これからも皆さんと刺激しあえるよう、とどまることなく挑んでいきたいと思ひます！

My Dream

後藤晋・後藤関子組
(長野県DSC)



昨日からフル回転の大活躍、長野県DSC(ダンススポーツクラブ)の会長を務める学連出身のベテランです。「来年は是非、世界選手権に出場したい。10ダンス選手目指して頑張ります」と晋さん。妻の関子さんは「子育て時期のブランクはありましたが、とにかくダンスは楽しい。リーダーを信じてついていだけで」と、笑顔が素敵な64歳と63歳のマイドリームカップルです。





役員集合

山形大学社交ダンス部創立(再興)20周年記念式典

2017年8月13日(日)／パレス・グランデール山形

山形大学社交ダンス部創立20周年を迎え、記念式典が開催されました。1971年(昭和46年)全東北学生舞踏連盟創立時、山形大学(社交舞踏研究会)は弘前大、岩手大、東北大、宮城教育大学の5大学の中核的な大学でした。この頃に活躍した1974年(昭和49年)卒の野口光二氏、同僚の高橋一文氏の両名が、式典に参加されました。長く連盟の中心メンバーの各校として活動していましたが、1984年(昭和59年)秋大会を最後にクラブは消滅、その後1998年(平成10年)石川正孝氏が中心となり山形大学社交ダンス部として(再)スタートし、2001年(平成13年)に福島大学と同時期に全東北学連に加盟しました。その後、山形大学最大のサークルに成長、2011年の夏大会では初の団体優勝を飾りました。しかしながらその後は苦難の道を歩みましたが、2015年(平成27年)、山形大学は社交ダンス部訓を決め、2016年(平成28年)には顧問に大澤弘典教授をお迎えしました。大澤先生は現役A級選手としてご活躍、月刊「ダンスファン」には2010年から約4年にわたり、ダンス競技に関するエッセイ「ダンスの泉」を執筆されたダンス通の先生です。

式典はすべてノンアルコールが徹底されていましたが、和やかに進み、合間にはダンスタイム、愉快で軽快な動きの1年から2年生によるお祝いネタなども披露されました。山形県ダンススポーツ連盟の高橋与一副会長と松浦旭理事もお祝いに駆けつけてくれました。



島田満奈実行委員長の開会宣言



全東北学連神宮周二副会長と
岩手県DS連盟高橋与一副会長



フォーメーション



今年は20名近い新入部員が入り、1年生から4年生まで総勢約40人近いメンバーで小白川キャンパスを中心に、米沢、鶴岡各キャンパスにも支部があり、工学部や農学部、学生の学生も楽しく活動しています。山形大学を代表する課外活動団体として、今後の発展が期待されます。山形大学社交ダンス部創立(再興)20周年まことにめでとうございます。島田満奈実行委員長はじめとする現役学生諸君並びにOB・OGの皆様、お疲れ様でした。

(全東北学生競技ダンス連盟 副会長 神宮周二)

山形県ダンススポーツ連盟松浦旭理事の感想

学生らしいシンプルなものの中にも楽しい式典だったと思います。式典の合間のダンスタイムや愉快で軽快な動きの1～2年生お祝いネタもあり、大変楽しく過ごさせていただきました。今、思うことは、いずれも絵になるさまになるシーンは、若さのなせる業でしょう！集団演技や演技発表などがあり、ノンアルコールの催しで楽しいイベントでした。大沼恭介主将の挨拶、高橋与一山形県DS連盟副会長の挨拶も良かったし、神宮周二全東北学連副会長の、山形大学社交ダンスの歴史と活躍した歴代の部員の紹介をしながらのご挨拶も味がありました。山形大学社交ダンス部の益々のご活躍とご隆盛をご祈念申し上げます。

山形大学社交ダンス部訓

- ・感謝と思いやりの心を忘れないこと
- ・日々反省し、謙虚であること
- ・常に向上心を持ち、精進すること
- ・規律、礼儀を重んじること
- ・部員としての誇りを持ち、活動に励むこと



主将 大沼恭介・佐藤真子組の演技発表デモ



JBDFプロB級昇進を決めた東海林祐介(2012年卒)と立花悠(2012年・岩手大学卒)によるスペシャル・デモ



第10回 ワールドゲームズ大会

THE WORLD GAMES 2017

総合開会式

第10回ワールドゲームズ大会は、2017年7月20日～30日までの11日間、ポーランド共和国・ヴロツワフ市で開催されました。ポーランド最大のスポーツイベントということで、IWGA(国際ワールドゲームズ協会)によると、111の国・地域から3,251名の選手が参加し、観戦チケットは16万枚が販売されました。国際ワールドゲームズ協会(IWGA)が主催し、国際オリンピック委員会(IOC)が後援する“第2のオリンピック”ともいわれる国際総合競技大会で4年に一度開催されます。日本

からはダンススポーツはじめ18競技に98名の精鋭が世界最高峰の舞台に挑みました。

ダンススポーツ競技は7月28日・29日に開催され、各国からトップ選手1組だけが代表して出場というハイレベルの国際競技大会で、スタンダード:山本武志(31歳)・木嶋友美(31歳)組、ラテン:藤井創太(18歳)・吉川あみ(18歳)組が日本代表として出場し19位、20位と健闘しました。次回は2021年、アメリカ・バーミングハムで開催の予定です。

WORLD GAMES 2017に参加して

スタンダード部門日本代表 山本武志・木嶋友美組

7月20日から30日までポーランドのヴロツワフで開催されたワールドゲームズ 2017に、ダンススポーツ・スタンダードの日本代表選手として参加させていただきました！

ワールドゲームズとは『第2のオリンピック』とも言われる国際総合競技大会です。競技種目自体が重複しなければ実施できるとのことで、オリンピックに出場している選手たちも参加していました。オリンピックは毎回種目が少し変動するのですが、この大会はIWGA(International World Games Association)に登録されているスポーツ競技、種目から選ばれるのだそうです。このような、ダンススポーツという枠だけではなくスポーツとして世界中のアスリートが集まる大会に参加できることはとても名誉なことですから、俄然気合いが入りました！

私たちは時差ボケの対策も兼ねて1週間程前にヨーロッパに入りました。所属しているチームディアブロに行き、レッスンを受けました。

そしてヴェネチアからほど近いカオルレという場所で、毎年開催されている非常に大きなインターナショナルダンスキャンプに参加し、最終調整をしました。このキャンプは本当に規模が大きく、3つのフロアで朝から晩までレッスン、レクチャー、トレーニングをし続けます！くたくたになりながらも、内容はとても充実し、大きな試合にむけて良いプレパレーションすることができました。

また、このキャンプにはワールドゲームズに出場する選手がたくさん参加していました！4年に一度、国の代表として戦うということでみんな良い意味で闘争心に燃え、素晴らしい練習・練習会をすることができました。

ヴェネチア空港からミュンヘン空港を経由し、ヴロツワフ空港へ向かいましたが、当然のことかもしれませんが、飛行機の中は国、ジャンルを問わずとにかくアスリートだらけ。みんなそれぞれ特化した体型をしていて何のスポーツをしているのかがわかる程です。なんともエネルギーギッシュな雰囲気の中、無事に到着しました。

オフィシャルホテルへの移動中、バスから外を見るといたるところに「WORLD GAMES 2017」のポスターがとにかくたくさん飾られていました。都市をあげて、

国をあげての国際イベントなのだな、と改めて感じました。2020年の東京の街も、さぞ盛り上がるだろうと想いを馳せました。東京オリンピック、とても楽しみです。

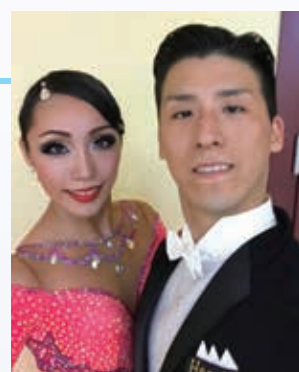
試合当日、オープニングセレモニーでフロアに出ると、たくさんの観客が入っていました。4年前行なわれたカリ大会では、ダンススポーツが一番人気でチケットも売り切れたとか。愛好家の方はもちろんですが、純粋なスポーツ観戦としての人気も上がるといいな、と感じました。

1日目はスタンダード、サルサ。2日目はラテン、ロックンロールという日程でした。私たちは初めてロックンロールを見ましたが、アクロバティックかつリズムミカルな演技で本当に面白く、魅了されました。会場も大いに湧いていました。

今大会ではプロ、アマ関係なく国の代表として1組だけ選抜されるということもあり、他では見られないハイレベルな試合になりました。

スタンダード部門は、アマチュアのチャンピオンDmitry Zharkov・Olga Kulikova組を破り、PD部門のBenedetto Ferrugia・Claudia Koehler組が実力を発揮し優勝。ラテン部門ではArmen・Svetlana組、Charles・Elena組など強豪揃いの中、アマチュアチャンピオンであるGabriele Goffredo・Anna Matus組がやはり優勝しました！

私たちの順位は第19位、ラテンの藤井創太・吉川あみ組は第20位と残念ながらメダルやファイナルには程遠い成績となってしまいましたが、日本代表としてかけがえのない貴重な経験をさせていただきました。関係者の皆様、本当にありがとうございました！この経験を活かし、もっともっと精進していきたいと思います。



初の二人だけの海外遠征

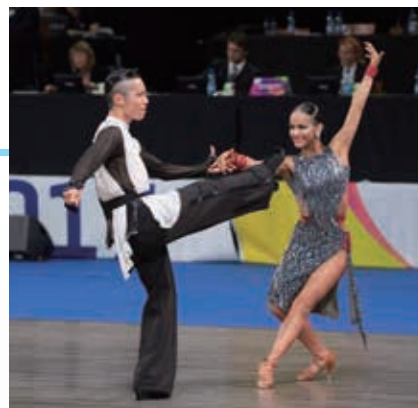
ラテン部門日本代表 藤井創太・吉川あみ組

2017年7月28日・29日、ポーランドのヴロツワフで開催されたワールドゲームズに日本代表として出場させていただきました。二人だけでの海外遠征は初めてのことで、緊張と不安がありましたが、26日に日本を出発して無事に現地時間で同日の23時頃に着き、ボランティアの方々の案内でバスでホテルまで送っていただきましたが、私たちだけホテルにチェックインが出来ないというハプニングがあり、やっとチェックインして部屋に入れたのは深夜2時近くでした。翌日は、会場のフロアで練習ができました。練習の時点で今までの大会では味わったことのないような緊張感がありました。その日は会場で、スタンダード代表の山本組に会うことができました。久しぶりに日本人に会ったのでとてもホッとしました。

28日はスタンダードの試合です。私たちは観戦と応援をしました。セレモニーを見ているだけでも世界の選手達の緊張感、興奮が伝わってきました。会場は観客でいっぱいで大変盛り上がっていました。スタンダードの試合を観戦したことで次の日のラテンの試合へのモチベーションも上がり、ワールドゲームズのような素晴らしい大会に出られるという喜びでワクワクしました。

29日のラテンの試合は夕方からスタートだったので、午前中は支度をして気持ちを試合に集中させる努力をしました。試合前の練習では、どの選手も真剣で私たちの緊張感はますます高まりました。練習をしているとあっ

という間に1次予選が始まりました。1次予選といってもジャーマンオープン最終予選くらいのレベルの高さで、周りの雰囲気にも飲まれてしまいそうになりましたが、今まで練習してきたことを出し切り、楽しんで踊ることを心掛けましたが、リダンスを踊ることになりました。リダンスを踊り終えて結果は20位。準決勝へは上がりませんでした。悔しい気持ちでいっぱいでしたが、海外のアダルトの選手とのレベルの差を痛切に感じました。また、アジアの選手とヨーロッパの選手との差もとても感じました。その差を埋めるためには今以上の練習・体づくり・メンタルトレーニングが必要だと思いました。自分たちの踊りを見直すきっかけになったことは、今回ワールドゲームズに代表として選んでいただき出場させていただいたおかげだと思います。このような素晴らしい試合に出場させていただき、貴重な経験ができました。日本ワールドゲームズ協会、JDSFに感謝します。また日頃から私たちを支えてくださるコーチ、家族、友達、応援してくれる方々があっての藤井・吉川組なので、今回の経験を活かし、世界で戦える選手になるためにももっと頑張っていきたいと思いますので、今後とも応援よろしくお願い致します。

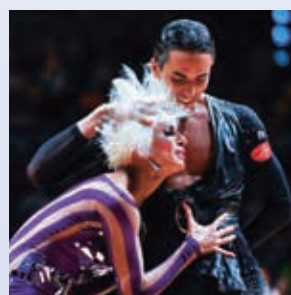


スタンダード優勝
Benedetto Ferrugia・Claudia Koehler 組(ドイツ)



ラテン表彰式

- 金メダル** Gabriele Goffredo - Anna Matus (モルドバ)
- 銀メダル** Armen Tsaturyan - Svetlana Gudyno (ロシア)
- 銅メダル** Charles-Guillaume Schmitt - Elena Salikhova (フランス)



ラテン優勝
Gabriele Goffredo・Anna Matus 組(モルドバ)

スタンダード表彰式

- 金メダル** Benedetto Ferrugia - Claudia Koehler (ドイツ)
- 銀メダル** Dmitry Zharkov - Olga Kulikova (ロシア)
- 銅メダル** Evaldas Sodeika - Ieva Zukauskaitė (リトアニア)



「ねんりんピック秋田2017」



総合開会式

秋田からつながれ！つらなれ！長寿の輪

主催：厚生労働省・秋田県・一般財団法人長寿社会開発センター

会期：2017年9月9日(土)～12日(火)

共催：スポーツ庁

他の競技会場でダンススポーツ競技の賑わい振りを聞いて予定を変更して立ち寄りました。素晴らしいですね！

「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康福祉祭」は、60歳以上の方を中心として、あらゆる世代の人たちが楽しみ、交流を深めることができるスポーツと文化の祭典です。節目となる第30回大会が秋田県で開催されました。

総合開会式は9月9日(土)、秋田県立中央公園県営陸上競技場において開催されました。午前10時、オープニングは「なまはげ太鼓」のアトラクションから始まり13時過ぎまで晴天の下、賑やかに盛大に開催されました。



穂積志秋田市長(右端)と徳山会長、山岡副会長

ダンススポーツ交流大会

監督会議は、大会前日の9月9日(土)、秋田県スポーツ科学センターにおいて15時から開始されました。主催者より、大会の注意事項や要望事項等が各チームの監督に説明がありました。そして翌10日(日)、秋田県営体育館において8時50分から開会式が始まりました。

徳山茂会長(大会実行委員長)の開会宣言、国歌斉唱に続き、鎌田潔副市長が歓迎の辞を述べ、「秋田の自然とともに、美味しい秋田のお酒も存分に味わって頂き、交流の輪を広げていただきたい」と挨拶。小林一夫秋田県議会議長は「日頃の成果を発揮されるとともに高齢になっても健康で生きがいを持ち、是非、この機会に秋田郷土料理を沢山食べ、沢山飲んでいただけたら嬉しいです」と挨拶されました。



監督会議風景



秋田市ねんりんピック推進室の高橋順幸氏

ねんりんピック秋田2017は、年齢基準日となる平成30年4月1日時点で60歳以上の、都道府県・政令指定都市の代表として選ばれた方が出場されます。個人戦はワルツ181組、タンゴ182組、チャチャチャ146組、ルンバ151組合計延660組の精鋭が出場、団体戦は青森県から鹿児島県、沖縄県まで46チームが出場しました。大会プログラムには選手名と背番号が記載され見やすくなる等工夫され、競技の進行は勿論、アトラクション、健康づくり教室、おもてなし広場の運営なども極めて順調に行われました。これも秋田市福祉保健部福祉総務課(ねんりんピック推進室)の高橋順幸氏はじめ、役所の方々の段取り、秋田県ダンススポーツ連盟の徳山茂会長(大会実行委員長)、山岡光廣副会長(副実行委員長)、川井武彦理事(チェアパーソン)、秋田県連盟の皆様の事前準備、さらに東北各県DS連盟の方々の協力により大変スムーズな進行となりました。そして昨年創部し、今年6月に大学公認体育系課外活動団体として正式なクラブに認められた秋田大学競技ダンス部の小原久教授(顧問)、田口博崇主将、前秋田市観光大使を務めた栗原茉莉子さんはじめ部員の皆さんの「若さと笑顔」も大会に華を添えました。



審判員(中西えり奈審判長、山口剛、鶴崎清貴、神宮周二、古瀬精一、天道貞一、鴻巣久枝、金子勲、吉田一子、林映子)



鎌田潔副市長

小林一夫
秋田県議会議長



開会式

久保田弓椰・徳野夏海組
(JDSF-PD北海道ブロック/
JDSF-PD関東甲信越ブロック)

2017年カップル結成してJDSF-PD部門に登録、以後もPD部門の競技会で数々の優勝を飾る。



模範演舞
(特別デモンストレーション)



前日大会会場を訪れた鈴木大地スポーツ庁長官(右から2人目)と役員



葛巻隆逸・葛巻まり子組(秋田県選手代表)による選手宣誓



秋田大学競技ダンス部の皆さん

千葉海都・千葉琳花組
(JDSF岩手県ポディーアートノ関所属)

岩手県立大学と岩手大学に通う姉弟カップル。現在は東北ブロックスタンダード&ラテンのチャンピオンとして大活躍中。



特別表彰(敬称略)



最高齢者賞

日高達一(愛媛県) 85歳
国頭純子(鳥取県) 82歳

秋田市特別表彰

秋田市役所が開庁した明治22年7月12日と同じ7月12日生まれの皆さんに秋田市産あきたこまち30kgが贈られます。



高齢者賞(高齢者順に男女3名ずつ)

男性：山岸昌彦(静岡市) 84歳
石橋 弘(広島市) 83歳
塩川俊昭(鳥取県) 82歳
女性：森田玲子(愛媛県) 81歳
平越禮子(愛媛県) 81歳
大田景子(鳥取県) 81歳



近藤汎子(神奈川県) 75歳、岡本保美(相模原市) 68歳、鈴木長嗣(秋田県A) 64歳、反町和代(群馬県) 63歳



健康づくり教室(骨密度、血圧測定など)



おもてなし広場(秋田名物福庭うどん、やさしい甘さのパパイヤ・アイス、ドリンクも提供されました)

アトラクション



西馬音内盆踊り(にしもないぼんおどり/国指定重要無形民俗文化財)。日本三大盆踊りの一つに数えられています。



白百合保育園一輪車クラブは、卒園しても続けている小学生から高校生の部員です。



ワルツ・タンゴ優勝 谷口主嘉・谷口小夜子組(京都市)



ルンバ優勝・チャチャチャ2位 前田信春・松本弓子組(東京都)

個人戦



チャチャチャ優勝・ルンバ2位 杉山典克・杉山美子組(静岡県)



ワルツ2位・タンゴ3位 伊藤裕人・永畑祥子組(福島県)



ワルツ3位 岩瀬純夫・岩瀬恵理子組(東京都)



ワルツ表彰式



タンゴ2位・ワルツ4位 佐々木孝一郎・佐々木弘美組(横浜市)



ルンバ3位・チャチャチャ4位 笹原清彦・笹原富美子組(山形県)



チャチャチャ3位・ルンバ5位 平沢一夫・平沢恵子組(茨城県)



タンゴ表彰式



チャチャチャ表彰式



優勝 東京都A

団体戦

優勝チーム岩瀬純夫
東京都Aチーム監督
「パートナーを大事にしている日頃の皆さんの努力で、昨年に続き優勝でき責任を果たせて良かったです。ホッとしています!」



準優勝 京都市



第3位 横浜市



地元秋田県チーム

20th 東京オープン・ ダンススポーツ選手権

興奮と感動の熱き競演!

2018年2月25日(日)

8:00~21:00

東京体育館

チケットはインターネットからも
購入できます!

E+ イープラス
<http://eplus.jp/jdsf/>

【入場券のお申込み】 JDSF会員は各所属団体へ

【一般入場券のお問合せ・お申込み】

大会事務局: 〒135-0063 東京都江東区有明3-4-2 有明センタービル1階
公益社団法人日本ダンススポーツ連盟「東京オープン実行委員会」

Tel:03-6457-1858 Fax:03-6457-1857

※電話でのお問い合わせは、13時~17時(土・日・祝日除く)にお願い致します

<http://www.jdsf.or.jp/> 日本ダンススポーツ連盟

競技
内容

WDSF PDスーパーグランプリ・スタンダード
WDSFワールドオープン・スタンダード
WDSFインターナショナルオープン・ラテン
U-23スタンダード / U-23ラテン

■主催/公益社団法人 日本ダンススポーツ連盟
■後援/スポーツ庁(申)・(公財)日本体育協会(申)・
(公財)日本オリンピック委員会(申)・
東京都(申)・毎日新聞社(申)



入場券 2017年12月上旬より販売開始!		一般価格	会員価格	高校生以下
AA席	指定席:アリーナ席長辺方向	10,000円	9,000円	4,500円
A席	指定席:アリーナ席短辺方向及び2階席1列~3列目迄	7,000円	6,000円	3,000円
B席	自由席:2階席 4列目以降	4,500円	3,500円	2,000円
C席	自由席:3階席	1,000円	—	500円

※会場内撮影は有料(出場選手も有料)。ビデオ4,000円、デジカメ・ケータイビデオも4,000円。(受付にお申込みください)
※三脚等の使用は禁止です。 ※体育館内のコンセントよりの充電は禁止されています。 ※アリーナ席での食事は禁止されています。

※AA・A・B席はプログラムが付きます。
C席にはプログラムが付いていません
ので会場にてお買い求めください。
(1,000円)
※当日売りチケットは前売+500円となり
ます。また高校生以下の方は当日
学生証をご持参ください。
※お申込み・JDSF会員はJDSF各所
属団体へ。大会事務局では2017年
12月上旬より先着順に予約販売受
付開始。